

II 薬剤の使用状況

1 薬剤料の比率

医科総点数に占める薬剤料の割合は、総数で21.7%、入院11.2%、入院外33.0%となっており、そのうち、「投薬」及び「注射」で使用された薬剤料の割合は、それぞれ、19.4%、9.4%、30.1%となっている。

前年と比較すると、医科総点数に占める薬剤料の割合は、総数で0.4ポイント、入院で1.1ポイント、入院外で0.5ポイント低下している。

歯科総点数に占める薬剤料の割合は、1.0%となっている。

薬局調剤総点数に占める薬剤料の割合は71.5%となっており、前年に比べ、0.3ポイント低下している。

また、薬局調剤分を医科、歯科それぞれに合算して求めた薬剤料の割合は、医科総数で28.6%、歯科で1.2%となっている。(表14、図15)

表14 医科(入院 - 入院外) - 歯科 - 薬局調剤別薬剤料の比率の年次推移

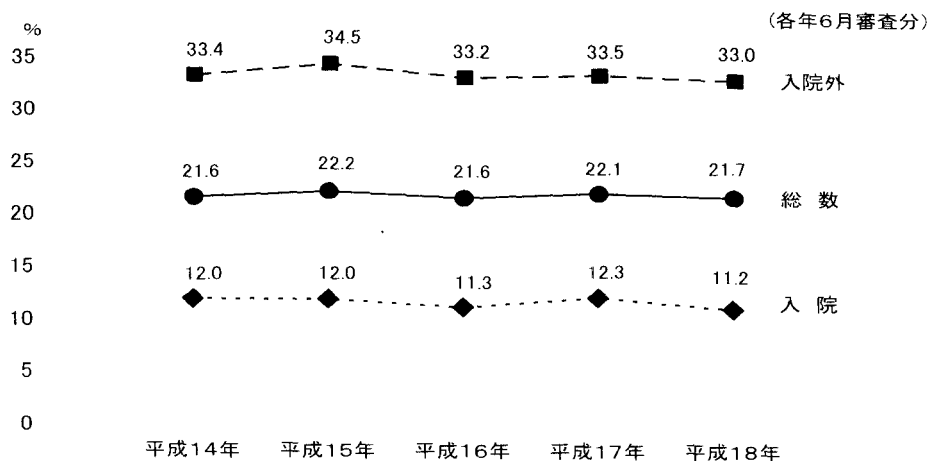
(単位:%)

(各年6月審査分)

		医科-歯科-薬局調剤別 1)					医科-歯科に薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合 2)			
		平成14年 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	平成16年 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	
医 科	総 数	薬剤料	21.6	22.2	21.6	22.1	21.7	27.5	28.7	28.6
		投薬・注射	18.9	19.6	19.2	19.8	19.4	25.3	26.8	26.9
		投薬	13.6	13.9	13.7	13.9	14.3	20.7	21.7	22.5
		注射	5.3	5.7	5.4	5.9	5.1	4.6	5.1	4.4
		その他の薬剤料	2.7	2.6	2.5	2.4	2.3	2.2	1.9	1.7
	入 院	薬剤料	12.0	12.0	11.3	12.3	11.2	11.3	12.3	11.2
		投薬・注射	9.7	9.8	9.4	10.4	9.4	9.4	10.4	9.4
		投薬	2.6	2.6	2.5	2.5	2.6	2.5	2.5	2.6
		注射	7.1	7.1	6.9	7.9	6.9	6.9	7.9	6.9
		その他の薬剤料	2.3	2.2	2.0	1.9	1.8	2.0	1.9	1.8
	入 院 外	薬剤料	33.4	34.5	33.2	33.5	33.0	35.8	37.0	36.6
		投薬・注射	30.2	31.5	30.2	30.6	30.1	33.5	35.1	34.9
投薬		27.1	27.4	26.4	27.0	26.9	30.1	31.5	31.6	
注射		3.1	4.1	3.8	3.6	3.2	3.4	3.6	3.3	
その他の薬剤料		3.2	3.0	3.0	2.9	2.9	2.3	1.9	1.7	
歯 科	薬剤料	0.9	1.0	1.0	1.1	1.0	1.2	1.3	1.2	
薬 局 調 剤	薬剤料	67.8	70.0	70.9	71.8	71.5				

- 注) 1) 「医科」及び「歯科」分では、「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除外してある。
 2) 「薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合」では、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書のみ除外し、薬局調剤分の総点数、薬剤料を医科、歯科にそれぞれ合算している。
 3) 「薬剤料」とは、総点数に占める「投薬」「注射」及びその他の診療行為の中の薬剤料の割合である。ただし、「薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合」では、薬局調剤分の内服薬及び外用薬を「投薬」に、注射薬を「注射」に合算している。
 4) 「その他の薬剤料」とは、総点数に占める、「在宅医療」「検査」「画像診断」「リハビリテーション」「精神科専門療法」「処置」「手術」及び「麻酔」の中で使用された薬剤料の割合である。
 5) 入院時食事療養費(円)は、点数換算(入院時食事療養費÷10)して総点数に含めている。

図15 総数 - 入院 - 入院外別にみた医科の薬剤料の比率の年次推移



2 院内処方（入院外・投薬）及び院外処方（薬局調剤）における薬剤点数

薬剤点数階級別件数の構成割合を入院外の投薬（以下「院内処方」という。）、薬局調剤（以下「院外処方」という。）別にみると、ともに「500点未満」が最も多く、それぞれ68.1%、61.6%となっている。また、一般医療、老人医療別にみると、老人医療は一般医療に比べて「1000点以上」の割合が高い。（表15、図16）

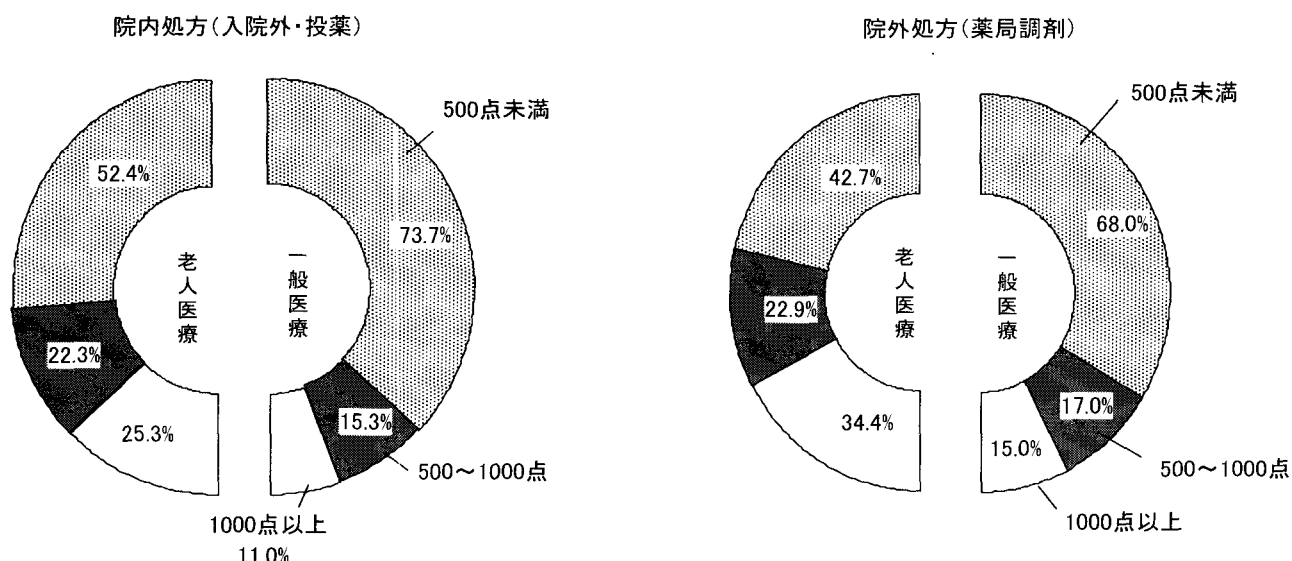
表15 院内処方 - 院外処方 - 年齢階級別にみた薬剤点数階級別件数の構成割合

		(平成18年6月審査分)										
		総数	総数	500点未満				500～1000	1000～1500	1500～2000	2000点以上	
			100点未満	100～200未満	200～300	300～400	400～500					
院内処方 (入院外・投薬)	総数	100.0	68.1	25.7	16.6	11.7	7.6	6.4	17.2	7.2	3.4	4.2
	(100.0)	(100.0)	(67.7)	(25.8)	(16.7)	(11.6)	(7.4)	(6.3)	(17.4)	(7.1)	(3.5)	(4.2)
	一般医療	100.0	73.7	29.4	18.4	12.3	7.5	6.1	15.3	5.6	2.4	2.9
老人医療	100.0	52.4	15.5	11.8	10.1	7.9	7.1	22.3	11.6	6.2	7.5	
院外処方 (薬局調剤)	総数	100.0	61.6	21.1	15.5	11.2	7.3	6.4	18.5	8.5	4.7	6.8
	(100.0)	(100.0)	(60.3)	(20.0)	(15.3)	(11.1)	(7.4)	(6.4)	(18.9)	(9.1)	(4.6)	(7.1)
	一般医療	100.0	68.0	23.9	17.6	12.3	7.6	6.5	17.0	6.9	3.4	4.7
老人医療	100.0	42.7	12.7	9.3	8.1	6.5	6.0	22.9	13.1	8.3	13.0	
院内処方	0～14歳	100.0	93.3	53.7	22.3	10.0	4.8	2.6	4.9	1.1	0.4	0.2
	15～39歳	100.0	86.0	38.7	23.7	12.3	7.0	4.3	8.9	2.8	1.0	1.4
	40～64歳	100.0	68.0	22.1	16.7	13.4	8.0	7.8	19.0	6.5	2.8	3.7
	65～74歳	100.0	58.3	17.5	13.7	11.4	8.6	7.1	21.7	10.2	4.3	5.4
	75歳以上	100.0	52.6	15.8	11.5	10.1	8.0	7.3	22.2	11.4	6.4	7.4
院外処方	0～14歳	100.0	89.7	43.2	22.3	13.0	6.7	4.4	7.9	1.7	0.5	0.4
	15～39歳	100.0	80.3	28.1	23.6	14.4	8.6	5.6	12.2	3.9	1.6	2.0
	40～64歳	100.0	60.1	17.2	15.4	12.3	7.5	7.7	20.7	8.7	4.4	6.1
	65～74歳	100.0	49.8	14.5	11.3	9.5	7.4	7.1	22.7	11.5	6.4	9.7
	75歳以上	100.0	42.5	12.6	9.4	8.1	6.4	6.0	23.1	13.2	8.4	12.8

注:1) 院内処方は、「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。
 2) 「院内処方」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。
 3) ()内は平成17年6月審査分

図16 院内処方 - 院外処方別にみた薬剤点数別件数の構成割合

(平成18年6月審査分)



注: 院内処方は、「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。

3 薬価階級別薬剤点数

薬価階級別薬剤点数の構成割合を院内処方、院外処方別にみると、ともに「250円未満」が最も多く、それぞれ82.2%、80.2%となっている。

また、一般医療、老人医療別にみると、一般医療は老人医療に比べて「500円以上」の割合が高い。(表16、図17)

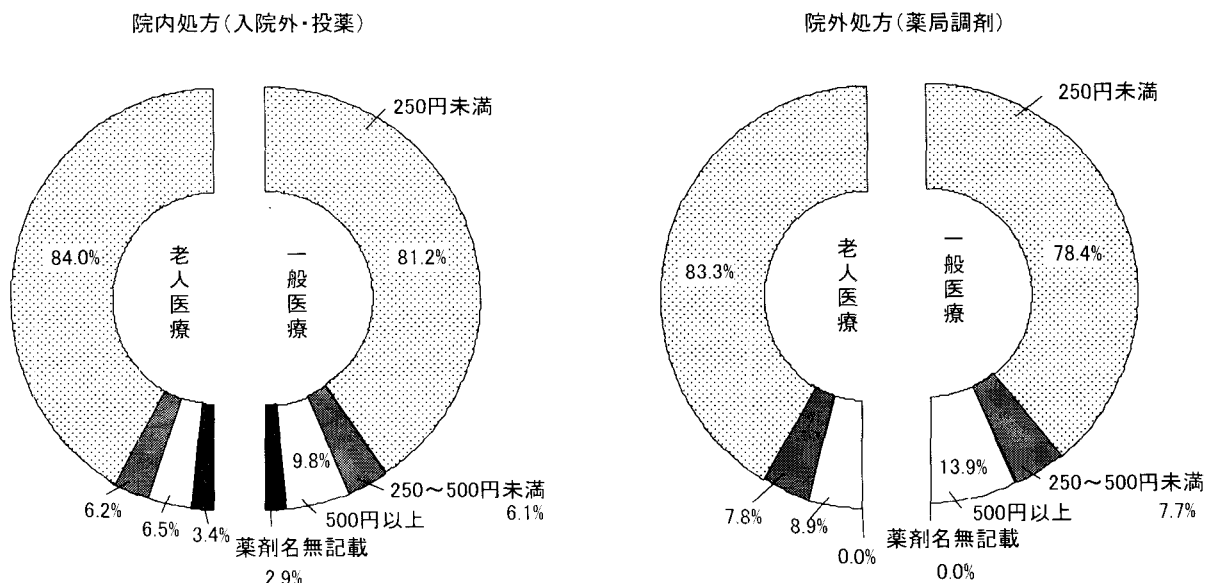
表16 院内処方 - 院外処方 - 年齢階級別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合

(単位: %)		(平成18年6月審査分)									
	総数	総数	250円未満					250~500	500円以上	薬剤名無記載	
			50円未満	50~100未満	100~150	150~200	200~250				
院内処方 (入院外・投薬)	100.0 (100.0)	82.2 (82.1)	31.4 (29.4)	24.6 (24.5)	13.3 (10.6)	11.2 (12.5)	1.7 (5.2)	6.1 (6.2)	8.6 (8.2)	3.1 (3.4)	
一般医療	100.0	81.2	30.3	24.6	13.5	11.1	1.7	6.1	9.8	2.9	
老人医療	100.0	84.0	33.3	24.7	12.9	11.4	1.7	6.2	6.5	3.4	
院外処方 (薬局調剤)	100.0 (100.0)	80.2 (81.8)	29.2 (29.1)	23.7 (24.0)	14.1 (11.4)	11.1 (11.7)	2.2 (5.8)	7.7 (7.3)	12.0 (10.8)	0.0 (0.0)	
一般医療	100.0	78.4	27.7	23.5	14.2	10.9	2.0	7.7	13.9	0.0	
老人医療	100.0	83.3	31.8	24.1	13.8	11.2	2.3	7.8	8.9	0.0	
院内処方	0~14歳	100.0	75.0	25.7	24.5	22.0	2.1	0.6	18.0	5.2	1.9
	15~39歳	100.0	76.9	33.8	20.7	12.6	7.5	2.3	7.1	14.0	2.1
	40~64歳	100.0	81.4	29.8	25.2	12.5	12.3	1.6	5.5	10.1	2.9
	65~74歳	100.0	84.3	31.4	25.3	13.7	12.3	1.6	4.7	7.8	3.2
	75歳以上	100.0	83.6	32.9	24.7	12.9	11.3	1.8	6.3	6.6	3.5
院外処方	0~14歳	100.0	72.9	24.8	23.6	21.6	1.5	1.5	17.2	9.9	-
	15~39歳	100.0	72.9	30.1	20.1	13.2	7.1	2.4	6.9	20.2	-
	40~64歳	100.0	79.5	27.6	24.1	13.0	12.7	2.1	7.1	13.4	0.0
	65~74歳	100.0	80.8	28.2	24.2	14.2	12.2	1.9	6.8	12.4	0.0
	75歳以上	100.0	83.8	32.1	24.1	14.0	11.3	2.4	7.9	8.3	0.0

注: 1) 院内処方は、「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。
 2) 「院内処方」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。
 3) ()内は平成17年6月審査分

図17 院内処方 - 院外処方別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合

(平成18年6月審査分)



注: 院内処方は、「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。

4 薬剤種類数

薬剤種類数別件数の構成割合を院内処方、院外処方別にみると、「1～2種類」が最も多く、それぞれ43.8%、39.4%となっている。1件当たり薬剤種類数をみると、院内処方で3.55種類、院外処方で3.88種類となっている。

また、年齢階級別にみると、年齢が高くなるほど「7種類以上」の割合が高い傾向となっている。(表17、図18)

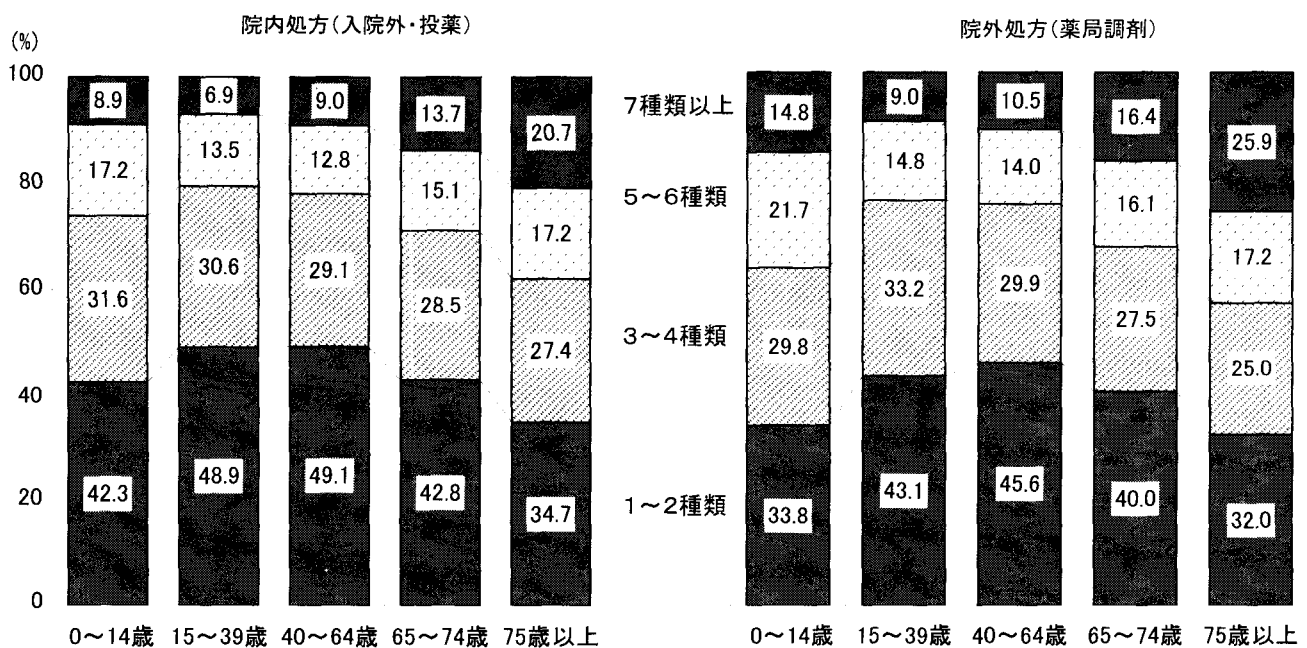
表17 院内処方 - 院外処方別にみた薬剤種類数別件数の構成割合・1件当たり薬剤種類数

	(単位:%)												1件当たり 薬剤種類数
	総数	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類 以上		
院内処方 (入院外・投薬)	100.0 (100.0)	22.7 (23.3)	21.1 (21.8)	16.7 (16.6)	12.4 (12.2)	8.8 (8.4)	6.1 (5.8)	4.2 (3.8)	2.7 (2.8)	1.8 (1.9)	3.6 (3.4)	3.55 (3.48)	
一般医療	100.0	24.7	22.2	17.1	12.6	8.5	5.5	3.5	2.1	1.3	2.4	3.28	
老人医療	100.0	17.0	18.1	15.5	11.7	9.4	7.8	6.1	4.3	3.1	7.0	4.30	
院外処方 (薬局調剤)	100.0 (100.0)	19.6 (19.9)	19.8 (20.2)	16.1 (16.6)	12.8 (12.6)	9.7 (9.2)	6.7 (6.5)	4.7 (4.6)	3.4 (3.3)	2.3 (2.3)	5.0 (4.9)	3.88 (3.84)	
一般医療	100.0	21.0	20.9	16.8	13.3	9.8	6.3	4.1	2.8	1.8	3.2	3.59	
老人医療	100.0	15.6	16.7	13.7	11.4	9.5	7.6	6.3	5.1	4.0	10.1	4.74	

注:1) 院内処方は、「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。
 2) 薬剤名無記載は、1種類としている。
 3) ()内は平成17年6月審査分

図18 年齢階級別にみた薬剤種類数別件数の構成割合

(平成18年6月審査分)



注:1) 院内処方は、「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。
 2) 薬剤名無記載は、1種類としている。

5 薬効分類別みた薬剤の使用状況

薬効分類別薬剤点数の構成割合をみると、入院では「抗生物質製剤」が最も多く、次いで「生物学的製剤」、「腫瘍用薬」の順となっている。院内処方では「循環器官用薬」が最も多く、次いで「その他の代謝性医薬品」が多く、院外処方では「循環器官用薬」が最も多く、次いで「中枢神経系用薬」が多い。(表18、図19)

表18 入院 - 院内処方 - 院外処方別にみた薬効分類別薬剤点数の構成割合

(単位: %)

(各年6月審査分)

	入 院		院内処方 (入院外)		院外処方 (薬局調剤)	
	平成18年	平成17年	平成18年	平成17年	平成18年	平成17年
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
中枢神経系用薬	9.0	8.5	8.4	7.3	10.4	9.6
感覚器官用薬	1.6	1.2	3.2	3.0	4.4	4.7
循環器官用薬	7.3	6.9	23.8	24.4	26.6	26.7
呼吸器官用薬	1.0	0.9	2.4	2.1	3.4	3.4
消化器官用薬	5.3	5.1	7.8	8.0	9.5	9.6
ホルモン剤	1.6	1.6	6.3	6.1	2.2	2.0
泌尿生殖器官及び肛門用薬	1.0	0.7	2.2	2.2	2.2	2.6
外用薬	1.0	1.1	4.3	4.4	4.5	4.7
血液・体液用薬	9.0	8.5	3.9	3.7	5.0	5.2
その他の代謝性医薬品	6.5	7.6	8.7	10.8	8.0	7.8
腫瘍用薬	9.9	9.0	5.0	4.5	4.5	4.5
アレルギー用薬	0.4	0.3	4.0	4.2	5.6	6.0
抗生物質製剤	14.8	15.3	3.0	3.0	3.4	3.2
化学療法剤	3.4	4.1	3.2	3.5	3.6	3.5
生物学的製剤	11.4	11.7	1.8	2.0	0.6	-
その他の薬効	16.9	17.4	9.4	8.0	6.3	6.5

注: 1) 入院及び院内処方は、「薬剤」の出現する明細書(ただし、「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く。)を集計の対象としている。

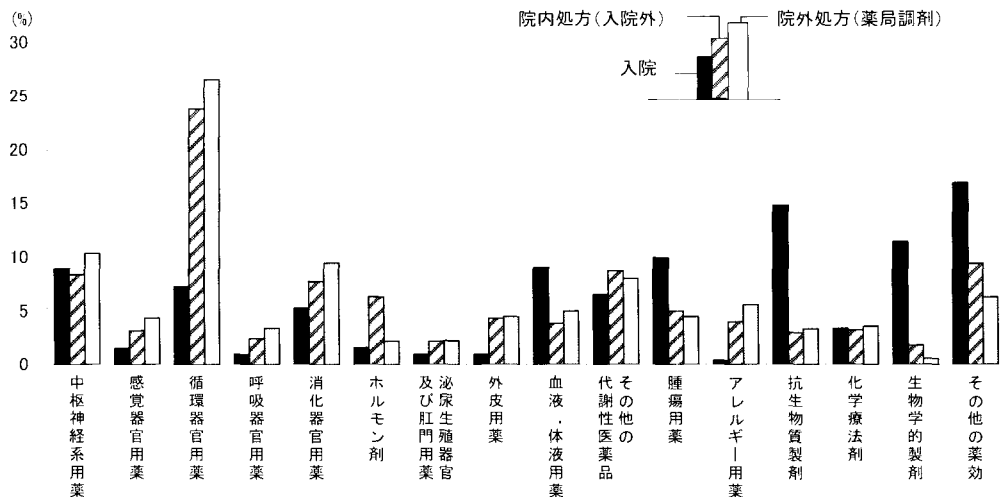
2) 「総数」には、薬剤名無記載を含む。

3) 「血液・体液用薬」は、生理食塩液等を指す。

4) 「その他の薬効」には、上記分類以外の「ビタミン剤」、「滋養強壮薬」等の分類を含む。

図19 入院 - 院内処方 - 院外処方別にみた薬効分類別薬剤点数の割合

(平成18年6月審査分)



注: 1) 入院及び院内処方は、「薬剤」の出現する明細書(ただし、「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く。)を集計の対象としている。

2) 「血液・体液用薬」は、生理食塩液等を指す。

3) 「その他の薬効」には、上記分類以外の「ビタミン剤」、「滋養強壮薬」等の分類を含む。

6 後発医薬品の使用状況

後発医薬品の出現した明細書の割合をみると、入院75.2%、院内処方48.6%、院外処方41.4%となっている。また、一般医療、老人医療別にみると、いずれも老人医療の割合が高い。

薬効分類別後発医薬品の使用状況をみると、入院では「血液・体液用薬」が最も多く、院内処方及び院外処方では「循環器官用薬」が最も多い。(表19、図20)

表19 入院 - 院内処方 - 院外処方別にみた後発医薬品の使用状況

(各年6月審査分)

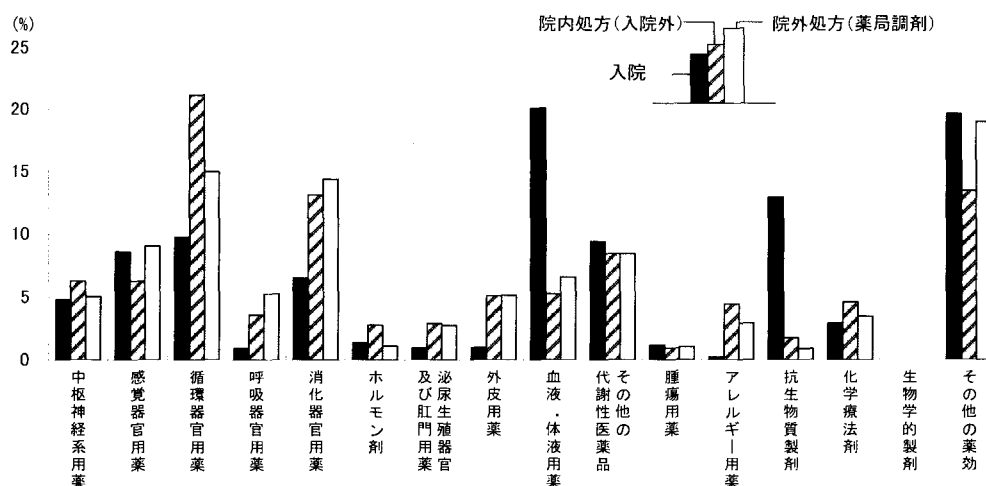
		平成14年 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)		
							一般医療	老人医療
後発医薬品 明細書出現率 (%) (注2)	入院	66.6	70.3	74.3	75.2	75.2	71.3	80.8
	院内処方(入院外・投薬)	43.6	46.4	47.8	46.0	48.6	45.8	56.6
	院外処方(薬局調剤)	36.7	40.0	39.1	38.9	41.4	38.6	49.5
薬剤点数に占める 後発医薬品の 点数の割合 (%)	入院	3.7	4.1	4.7	4.9	5.1	4.9	5.3
	院内処方(入院外・投薬)	6.8	8.0	7.8	8.0	9.0	8.8	9.2
	院外処方(薬局調剤)	4.5	4.9	4.5	4.7	5.3	5.2	5.5
1件当たり 後発医薬品の種類数 (A)	入院	0.78	0.81	0.96	0.98	0.97	0.86	1.13
	院内処方(入院外・投薬)	0.73	0.77	0.80	0.76	0.85	0.77	1.07
	院外処方(薬局調剤)	0.52	0.59	0.57	0.57	0.62	0.56	0.80
1件当たり薬剤種類数 (B)	入院	7.58	6.54	6.62	6.49	6.46	5.93	7.20
	院内処方(入院外・投薬)	3.72	3.57	3.58	3.48	3.55	3.28	4.30
	院外処方(薬局調剤)	3.82	3.87	3.86	3.84	3.88	3.59	4.74
1件当たり薬剤種類数に 占める後発医薬品の 種類数の割合 (%) (A)*100/(B)	入院	10.3	12.4	14.5	15.1	15.0	14.5	15.7
	院内処方(入院外・投薬)	19.6	21.6	22.2	21.9	23.9	23.4	24.9
	院外処方(薬局調剤)	13.6	15.2	14.9	15.0	16.1	15.7	16.9

注：1) 入院及び院内処方は、「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCIに係る明細書は除く。)を集計の対象としている。

$$2) \text{後発医薬品明細書出現率} = \frac{\text{後発医薬品が出現した明細書件数}}{\text{明細書総件数}} \times 100$$

図20 入院 - 院内処方 - 院外処方別にみた後発医薬品の薬効分類別薬剤点数の割合

(平成18年6月審査分)



注：1) 入院及び院内処方は、「薬剤」の出現する明細書(ただし、「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCIに係る明細書は除く。)を集計の対象としている。

2) 「血液・体液用薬」は、生理食塩液等を指す。

3) 「その他の薬効」には、上記分類以外の「ビタミン剤」、「滋養強壮薬」等の分類を含む。